

グループビジョン 2030・進捗報告会における主要な質疑応答

質問	回答
<p>Q1 : 水素事業の事業規模（売上高計画）を上方修正した理由を教えてください。</p>	<p>A1 : 国内では、2020 年 12 月に政府から「2050 年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」が示され、2030 年時点での水素需要が大きく拡大する見通しとなりました。</p> <p>海外でも水素関連投資は拡大しており、当社が関与している複数のプロジェクトにおいても、計画の前倒しや規模の拡大が検討されています。</p> <p>このような動向を当社の数量計画にも反映し、2020 年 11 月発表数値からの上方修正に至りました。</p>
<p>Q2 : 自動 PCR 検査サービスの事業規模（売上高計画）を教えてください。</p>	<p>A2 : 現状、国内での PCR 検査はモニタリング検査^{※1}が中心です。今後、市中のスクリーニング検査^{※2}が定着すれば、自動 PCR 検査サービス事業の売上高は 1,000 億円を超える可能性もあります。なお、ワクチンが十分に普及した後も、空港等で一定の需要が残ると考えられます。</p> <p>※1 モニタリング検査とは、駅や繁華街等で無症状者に対する検査を行い、そこで得られたデータを活用して感染拡大の予兆や感染源を早期探知するための検査</p> <p>※2 スクリーニング検査とは、特定の集団に対して実施する共通検査によって、目標疾患の罹患を疑われる対象者あるいは発症が予測される対象者をその集団の中から選別するための検査</p>
<p>Q3 : 東京オリンピックで、当社の自動 PCR 検査サービスを運用するのですか。</p>	<p>A3 : 現時点で決まっていることはありませんが、いつ要請があっても協力できるようにしていきます。</p>
<p>Q4. エネルギー事業について、水素ガスタービンの販売戦略を教えてください。</p>	<p>A4. 当社は中小型のガスタービンを手掛けており、既に水素専焼に成功しています。ただし、水素導入期においては、既存ガスタービンの燃焼器を交換して水素・LNG 混焼とする方式が中心になると想定しています。当社としては顧客のエネルギー政策にあわせて、混焼と専焼どちらもご提案していきます。</p>
<p>Q5 : アンモニアを活用した脱炭素対応について、どのように取り組む考えですか。</p>	<p>A5 : 当社は、あくまで液化水素を中心とした事業展開を考えていますが、アンモニアの運搬においては一定の貢献が可能だと考えています。</p>
<p>Q6 : LPG・アンモニア兼用運搬船の概要を教えてください。</p>	<p>A6 : 現行の LPG 運搬船と同程度のサイズおよびキャパシティであり、搭載している 4 つのタンクそれぞれで LPG またはアンモニアの選択積載が可能です。アンモニアの需要がどの程度高まるか不透明な状況において、LPG でもアンモニアでも運べる船は顧客の投資リスク低減に寄与します。</p>

グループビジョン 2030・進捗報告会における主要な質疑応答

質問	回答
<p>Q7 : ソニーグループとの合併事業について、事業規模（売上高計画）を教えてください。</p>	<p>A7 : 現時点では事業規模の見通しはお答えできませんが、実作業を伴う労働をリモートで可能にする試みであり、労働力不足の深刻な地域を中心に需要は非常に大きいと認識しています。</p>
<p>Q8 : 開発を進めている EV 二輪車・ハイブリット二輪車について教えてください。</p>	<p>A8 : 大排気量のスポーツモデルを特色とするカワサキのファンに十分楽しんでいただけるエキサイティングなモデルの開発を進めています。</p>
<p>Q9 : 橋本社長が就任して約 1 年経過しますが、スピード感やマーケットインといった経営方針は社内に浸透していると感じますか。</p>	<p>A9 : コロナ禍をきっかけに社内に危機感が醸成され、あらゆる物事のスピード感が上がってきていると感じます。マーケットインを意識したプロジェクトも増えており、人事制度改革によりカンパニーを越えて協力する社風が浸透しつつあります。</p> <p>一方で、現状 30%程度の比率である活躍社員を増やすためには、社員が能力を発揮できるミッションや環境を準備することが重要であり、引き続き会社の変革に取り組んでいきます。</p>

以上